

改訂第2版 発刊によせて

藤原 泰子

今から10年前に「基本からとっさのときまで在宅看護クイックマニュアル」第1版(2002年)を、その2年後に「改訂新版 在宅看護クイックマニュアル-基本からとっさのときまで-」(2004年)を出版して、早くも8年が経過しました。この間、在宅看護に関わる訪問看護師諸兄姉、在宅介護現場で働くホームヘルパーの皆さんをはじめとして、多くの方々にご活用いただきましたことを心より感謝申し上げます。また、最近では看護基礎教育における『在宅看護実習』において、看護学生の方々にも活用していただいていると聞いております。

介護保険制度発足後12年余が経過した今、制度の内容も変化し、現状では活用しにくいものとなりつつあるため、今回2回目の改訂をすることになりました。

医療機関から在宅看護へと継続するときに最も重要なのが、医療機関で行われた退院指導内容であることから、その指導内容を訪問看護師が十分把握し、在宅でもその内容が継続できれば、入院期間が短く、あわただしく退院をしなければならない多くの患者さんの退院後に生じる不安の軽減につながるのではないかと考え、患者さんやその介護者が安心して在宅療養に移行できることを願って内容を選択・検討しました。

1章の各項目は、I. 在宅看護の基本(A. 退院指導の内容確認、B. 看護の基本、C. 在宅でのポイント)、II. 緊急時の対応、に整理しました。

2章の在宅でとっさに必要になる応急処置については、Step 1観察、確認、Step 2応急処置、Step 3救急車の要請と受診の3段階に看護（介護）の内容を分類・整理し、イラストを多く用いて、どなたにも理解できやすいようにしました。

3章の介護保険の使用方法については、要介護認定申請からサービスを受けるまでの手続きやその使用方法などについて、できるだけ最新の書式や事例を多く入れて、一層わかりやすい内容にしました。書式については、最新の改訂を踏まえ平成25年（2013年）4月より使用できるものを掲載しました。

本書は、臨床で勤務している看護師諸兄姉はもとより、訪問看護師や在宅看護を学んでいる看護学生の皆さんなどにも、在宅看護実践のハンドブックとしてお役に立てるものと自負しております。また、介護保険制度施行後、急速に増加した在宅療養者へのケア提供者に対する参考書としてご利用いただけるものと期待しております。

在院日数の短縮化から、患者さんの多くが退院を喜ぶより「病院を追い出された！」という実感を持っている現状で、病院内で行われた看護の内容が円滑に在宅へと継続できるように訪問看護師は取り組まなければなりません。また、今後さらに増加が見込まれる高齢の在宅療養者の在宅看護を、利用者ニーズにあった、質の高いものにしていけるように努力することも訪問看護師に課せられた重要な役割でしょう。

本書が在宅療養者のケアに関わる多くの方々のお役に立てれば、これ以上の喜びはありません。

最後に今回の改訂版の発行にあたりご尽力くださった真興交易株式会社の橋内千一社長と医書出版部の越智苗子さんに心より感謝いたします。

2013年3月